

舗装傷めない発煙筒開発

ゲル材内包装袋で熱劣化回避

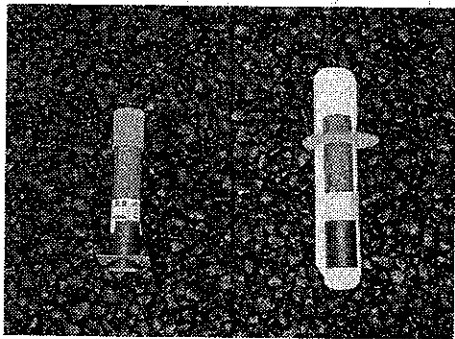
NIPPO 国際化工

NIPPOは、発煙筒メーカーの国際化工（東京都千代田区、長谷川文雄社長）と共同で、舗装を傷めない発煙筒を開発する事案を回避するため、

ゲル材を内包した袋で側面をカバーするなどの工夫を施し、高温が伝わらないようにした。NIPPOが舗装工事を手掛け



発煙筒の燃えかすで区画線やカラー舗装が損傷するケースが見受けられた



従来の発煙筒と開発品

た現場で実地試験を行い、効果を確かめ、道路管理者や交通管理者に有効性を訴えながら、一般化に向けた取り組みを進めていく。

舗装会社で唯一、自前で車線規制を行うNIPPOの関東第一支店試験所担当者がこうした事象に気付いたのが開発のきっかけとなった。

NIPPOでは、舗装工事受注後の提案でこの発煙筒の採用を発注者に認めてもらいながら、実地試験を重ねてきた。導入現場では、舗装を傷めないという所期の目的を果たすだけでなく、区画線やすべり止めのカラー樹脂舗装の損傷防止に役立つといった効果も確認することができた。

これまで高速道路の表面は非透水の密粒が主流であったこともあり、高温の燃えかすが付着した個所の舗装損傷が認知されていなかった。それがここ数年で広く採用されるようになった排水性舗装では、ポーラス状のすき間に入り込んだ燃えかすが原因で熱劣化を起し、交通開放後に舗装損傷が進行する事例が見受けられた。

国際化工と取り組んだ製品開発では、発煙筒本来の使用目的である視認性を損なわずに、燃えかすが直接路面に触れないことで舗装表面に高温が伝わらない構造となるよう、試行錯誤を重ねた。

発煙筒は、規制範囲などに応じて、燃焼時間が3分、5分、15分のタイプがあり、開発品はどれも対応可能という。